

[話題提供] 西湖におけるクニマス資源の動向

[要約] 2019 年秋のクニマス資源量は推定 730 尾（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）と過去最低の水準を示した。危機的な状況と懸念されたが、2020 年秋のクニマス釣獲比率は 11.7%と前年の 1.1%から大幅に回復している。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・青柳敏裕

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 食糧花き水産課、西湖漁協、富士河口湖町

[背景・ねらい]

クニマス保全に悪影響を及ぼしうる要因として、ヨーロッパウナギによるクニマス卵の食害や、産卵場湖底湧水が少なく局地的であることが明らかとなり、現在産卵保全を目的として実態調査や駆除技術開発に取り組んでいる。これら試験研究の基礎資料となるクニマス資源を推定し、その動向を評価する。

[成果の内容・特徴]

1. 2019 年秋の推定資源尾数は 730 尾（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）となり、過去最低の水準である（図 1）。
2. 2020 年秋の試験採集ではクニマスの採集比率が 11.7%（クニマス尾数/[クニマス+ヒメマス尾数]）、1 時間当たりの採集者の平均釣果が 0.21 尾/人・時間と、前年度（1.1%、0.04 尾/人・時間）に比べて大幅に上昇している（図 2, 3）。
3. 2020 年秋の資源推定値は 2021 年春漁期を含めた総釣獲尾数が秋以降に確定した後となり、現時点で資源動向の評価はできないが、資源推定値は回復に転ずる可能性が高い。

[成果の活用上の留意点]

1. ヒメマスに混じり少数が釣獲されるクニマスの資源推定を直接行うことは困難である。資源推定値はヒメマス資源推定尾数にクニマスの採集比率を掛けて得られる精度の粗い概算値であり、傾向を推定するための指標と捉えることが望ましい。

[期待される効果]

クニマスの生息状況を推定し、保全対策を図る基礎資料となる。

[具体的データ]

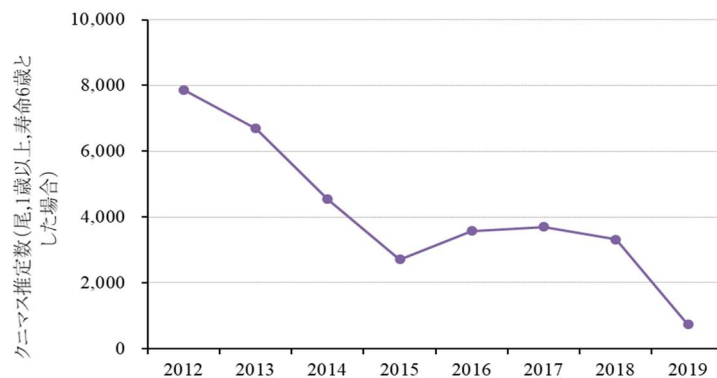


図1 クニマスの推定資源尾数 (1歳以上、寿命6歳とした場合)

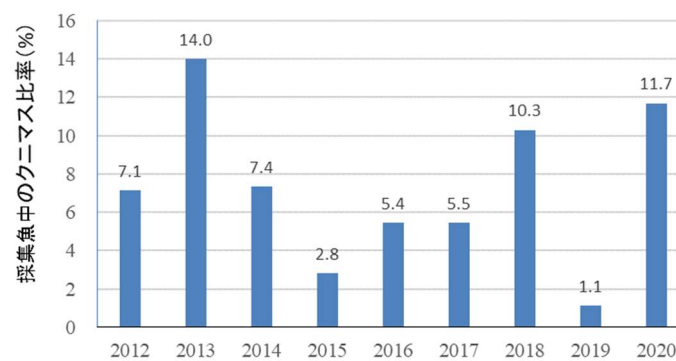


図2 試験採集魚中のクニマス比率

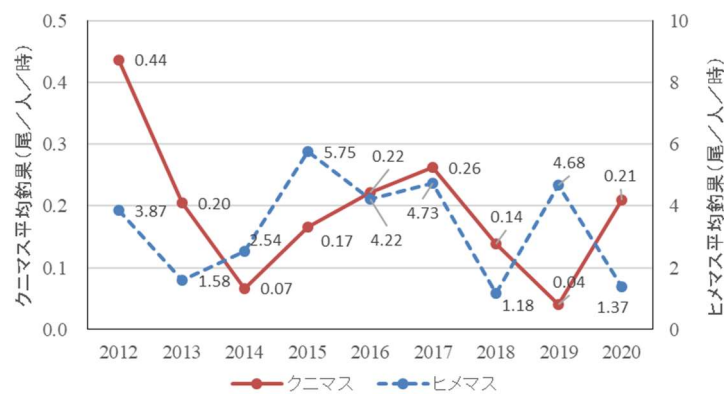


図3 試験採集時の平均釣果 (CPUE)

[その他]

研究課題名：①クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究、②クニマスの保全並びに活用に関する研究、③クニマスの保全及び養殖技術に関する研究

予算区分：県単（総理研）

研究期間：①2012～2014年度（プレ研究・2011年度）、②2015～2017年度、③2019～2021年度（プレ研究・2018年度）

研究担当者：青柳敏裕、加地弘一、大浜秀規、名倉 盾、芦澤晃彦、谷沢弘将、岡崎 巧、三浦正之、小澤 諒、平塚 匡、坪井潤一